



## 会長挨拶

今泉 忠

日本分類学会が「分類の理論と応用に関する研究会」として発足したのは、1983年6月です。その設立趣意書は、以下のような文言で始まります。

「"分類"はあらゆる科学における基本的な思考操作である。しかしながら、このことは従来とかく看過されがちであった。"分類を通じて物事を知る"ということがあまりにも当然であるために改めてそれが固有の方法であると意識されなかったのである。この傾向は今日もなお残っている。そのため、本来思考の枠組として科学的見地から検討されるべきはずの分類に対する研究は進展しなかった。にもかかわらず、取り扱う現象や情報が単純であった時代にはそれでも支障が少なかったといえる。

しかし、いまや状況は一変した。計算機や情報科学の発展がデータを扱う諸科学に強烈な影響をもたらし、どの研究分野においても多種多様の膨大なデータが蓄積される時代になった。また、計測技術の進歩により、扱う情報が複雑になり、その様相も多元的かつ動的なものに変質している。」

この文言は、30年を経過し、「多種多様の膨大なデータが蓄積される」時代から、「多種多様の膨大なデータから新しい情報を生み出すための」時代へと変わった2013年においては更なる重要性を持っていると考えます。非構造化データまでを含む多種多様の膨大なデータから、科学的思考により現象をモデル化し、質の高い情報を得るための科学的な方法としての分類方法の位置づけとその利活用での妥当性が問われています。

日本分類学会の特色は、国際的な研究促進活動にあります。1983年の設立時から国際分類学会連合（International Federation of Classification Societies: IFCS, 1985年設立）の創立に参加しています。1996年には日本分類学会主催によるIFCS1996が神戸において開催されました。その後、

## <目次>

|                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| ・巻頭言「会長挨拶」 今泉 忠                                       | 1  |
| ・役員改選                                                 | 2  |
| ・個人情報提供についての経緯説明                                      | 3  |
| ・大会・シンポジウム開催記録                                        |    |
| 2012 年度統計関連学会連合大会企画セッション「日本分類学会シンポジウム：データ分析の理論と応用」    | 3  |
| JCS-CLADAG2012                                        | 3  |
| 日本分類学会第31回大会                                          | 4  |
| IFCS2013                                              | 4  |
| 2013 年度統計関連学会連合大会 企画セッション「日本分類学会シンポジウム：クラスタリング研究の新展開」 | 5  |
| ・大会参加記録                                               |    |
| JCS-CLADAG12に参加して 富田 誠                                | 5  |
| IFCS2013に参加して（その1） 山本倫生                               | 6  |
| IFCS2013に参加して（その2） 松井佑介                               | 6  |
| ・大会・シンポジウム開催案内                                        |    |
| 日本分類学会第32回大会開催のお知らせ                                   | 7  |
| データ分析セミナーのお知らせ                                        | 8  |
| ・学会誌「データ分析の理論と応用」の特集について                              | 8  |
| ・総会記録                                                 | 8  |
| ・運営委員会記録                                              | 14 |
| ・幹事会記録                                                | 15 |
| ・事務局から                                                | 15 |

IFCSの賞としてChikio Hayashi Awardという若手研究者の育成を目的とした賞も設立されました。

IFCSは、現時点で14カ国の学術団体が参加し、2013年7月には第13回の国際会議がオランダのテイルブルグで開催され日本からも多くの参加者がありました。その他の本学会の国際的な研究促進としては、2012年3月に京都（同志社大学）で第4回日独分類シンポジウムを開催し、また、2012年9月には第1回日伊分類シンポジウム（JCS-CLADAG2012）をイタリア、カプリ島で開催しました。また、2007年より日本・ドイツ・イタリアの分類学会の協力のもとで学術誌Advances in Data Analysis and Classificationも出版されて

います。

一方、国内向けには、2011年からは、データ科学の広範な分野の学際的な研究交流の成果公表の場として和文誌「データ分析の理論と応用」を創刊しました。和文誌名が示唆しますように、さまざまな分野でのデータ分析に関連する実践的な応用、あるいは、方法の開発、理論の発展において有益あるいは独創性のある業績を、論文として斯界に広く知らしめることを目的に発刊されています。

今後ともに、本学会の特徴である、データへの科学的思考に基づく分類手法の理論とその実践的な応用の発展を図ること、および、国内外の学術団体の共同研究促進を積極的に図って参る所存です。

皆様の本学会の活動へのご支援とご協力をお願いいたします。また、会員の皆様には大会やシンポジウムへの積極的な参加、欧文誌「ADAC」、和文誌「データ分析の理論と応用」への投稿をお願いいたします。

(会長、多摩大学)

#### 平成25・26年度の役員改選結果報告

会則に従い、平成25・26年度の役員改選を行いました。なお、以下の所属の表記は選挙実施時のものになります。2名の選挙管理委員(久保田貴文(統計数理研究所)、横山暁(帝京大学))により開票を行いました。結果は以下の通りです。任期は、平成25年4月1日から平成27年3月31日までです。

#### 平成25・26年度役員

##### 会長

今泉 忠 (多摩大学)

##### 会計監事

繁樹算男 (帝京大学)

吉野諒三 (統計数理研究所)

##### 運営委員会

足立浩平 (大阪大学)、大隅 昇 (元統計数理研究所)、大津起夫 (大学入試センター)、岡太彬訓 (多摩大学)、栗原孝次 (岡山大学)、酒折文武 (中央大学)、佐藤美佳 (筑波大学)、竹内光悦 (実践女子大学)、土屋隆裕 (統計数理研究所)、中山厚穂 (首都大学東京)、馬場康維 (統計数理研究所)、林 篤裕 (九州大学)、林 文 (元東洋英和女学院大学)、真鍋一史 (青山学院大学)、村上 隆 (中京大学)、宿久 洋 (同志社大学)、

山岡和枝 (帝京大学)、山口和範 (立教大学)、山本義郎 (東海大学)、渡辺美智子 (慶應義塾大学)

また、運営委員会によって、以下の幹事会メンバーが承認されました。

#### 平成25・26年度 幹事長

竹内光悦 (実践女子大学)

#### 平成25・26年度 幹事

中山厚穂 (庶務、首都大学東京)

河野康成 (会計、立教大学リーダーシップ研究所)

酒折文武 (広報、中央大学)

横山 暁 (広報(会報・SNS)、帝京大学)

豊田裕貴 (企画、多摩大学)

宿久 洋 (和文誌編集、同志社大学)

佐藤美佳 (渉外、筑波大学)

栗原孝次 (渉外、岡山大学)

山口和範 (渉外(国際学会活動)、立教大学)

水田正弘 (渉外(IFCS)、北海道大学)

林 篤裕 (渉外(IFCS)、九州大学)

#### 個人情報提供についての経緯説明

—統計教育大学間連携ネットワークからの依頼対応について—

林 篤裕

学会員の中には統計教育大学間連携ネットワークが実施したアンケート「大学における統計教育実態調査」を受け取られた方もいらっしゃると思います。当団体からは2012年11月に統計教育に関するアンケートを学会員に対して実施したい旨の協力依頼がありました。当団体は本学会を含め統計関連の他学会と共にステークホルダーとして参画している団体であり、近年益々高まっている統計教育の重要性に鑑み、この調査が学会員の利益にも資すると判断し、幹事会として会員情報の提供をどの様に行えば会員の不利益にならないかを慎重に検討しました。

結果として、統計教育の現場でもある大学に所属する会員のみを対象とすることとし、提供する住所も自宅住所ではなく、大学の住所や所属部局とすることになりました。その理由は、これらの情報が大学のホームページ等から収集できる公になっている情報であるからです。しかし、公になっているとは言え、参画している団体に対して、一々調べてもらうのは配慮に欠けるとも判断しました。また、これら情報の提供にあたっては、

パスワード付きファイルで提供し、目的外使用の禁止と利用後の速やかな破棄を依頼しました。

会報の発行時期との関係で今回の経緯のお知らせが遅くなってしまい、申し訳ありませんでした。本学会として学会員の個人情報をお預かりしている立場から、今後とも名簿の管理は厳重に行い、会員の不利益にならないようにプライバシーポリシーに注意を払いながら個人情報を取り扱ってまいります。今後とも本学会の活動にご支援・ご協力をよろしくお願いします。

(前幹事長、九州大学)

## 大会・シンポジウム開催記録

### ○ JCS-CLADAG2012 開催報告

馬場康維

日本分類学会とイタリア分類学会の共催による JCS-CLADAG2012 (Joint meeting of Japanese and Italian Classification Societies, オーガナイザー: イタリア側 Donatella Vicari, 日本側 岡太彬訓) が2012年9月3~4日の2日間イタリアカプリ島の Anacapli, Villa Orlandi で開催された。テーマは"Analysis and Modeling of Complex Data in Behavioural and Social Sciences"である。イタリア分類学会は、2008年にはフランス分類学会と、2010年にはドイツ分類学会とジョイントで同様の学会を開催しており、今回の会合は、3回目、COMPSTAT2012 のサテライトミーティングにもなっていた。

JCS-CLADAG2012 では前日に Wirtschaftsuniversität Wien の Reinhold Hatzinger 教授によるチュートリアルセッション、"Extended Rasch Modeling in R"があるはずであったが、教授が7月17日に急逝されたため中止になった。Reinhold Hatzinger 教授のご冥福をお祈り申し上げたい。

1日目、9月3日のオープニングでは、JCS (日本分類学会) の馬場康維会長 (当時)、CLADAG (CLAssification and Data Analysis Group of the Italian Statistical Society) の Francesco Palumbo 会長、IASC (International for Statistical Computing) の Vincenzo Esposio VinzI Chairman-elect の3人から開会の挨拶があり大会の幕を開けた。2日間とも企画セッションと一般セッションの構成になっており、初日は、JCS による keynote session (S. Miyamoto, Statistical and

Non-statistical Models in Clustering: An Introduction and Recent Topics) と2つの specialized session (JCS 企画のもの1, CLADAG 企画のもの1)、3つの solicited session (CLADAG 担当2, IASC 担当1) があり、6つの contributed session があった。keynote session と specialized session は全員出席のセッションで、他は3つのセッションのパラレルセッションで、工夫されたプログラムになっていた。

初日の夜は、会場に近い、Villa San Michele で Dinner Party が開かれた。当初は庭でのパーティーが計画されていたようであるが、あいにくの小雨模様で、テラスでのパーティーになった。港が見える立地にあり、雨上がりの澄んだ空気の中で見る港と月の光景は美しいものであった。

2日目は、CLADAG による keynote session (F. Bartolucci, Modeling Longitudinal Data with Application to Educational and Psychological Measurement) と2つの specialized session (JCS 企画のもの1, CLADAG 企画のもの1)、3つの solicited session (JCS 担当2, CLADAG 担当1)、6つの contributed session があり、どのセッションも盛況であった。keynote session と specialized session 以外は、部屋も小さかったこともあり、人があふれて講演を聞けない参加者もでるという一幕もあった。

大会実行委員会からは参加人数の統計の報告はなかったので正確な参加者数はわからないが、手元の abstract book の索引によると、報告に名を連ねた人の国別内訳は、日本 (40人)、イタリア (113人) の他、フランス、イギリス、オランダ、スペイン、ポルトガル、スロベニア、オーストリア、ドイツ、ノルウェー、ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、EU等、世界各国からの参加者があり185名であったが、会場の様子からは、これよりは多い参加者がいたように見受けられる。プログラムによれば、講演数は94である。タイトなスケジュールで、ハードであったが、日本から行った参加者にとっては良い刺激になった meeting であった。

カプリ島には有名な“青の洞窟”がある。何人かの参加者が、見物ツアーに挑戦したようであるが、気象条件のために入れなかったという後日談を聞いた。

(統計数理研究所)

○ 2012 年度統計関連学会連合大会 企画セッション「日本分類学会シンポジウム：データ分析の理論と応用」

栗原考次

2012 年度統計関連学会連合大会（2012 年 9 月 9 日（日）・12 日（水））において、日本分類学会シンポジウム「データ分析の理論と応用」を企画セッションとして開催した。開催の趣旨と概要は以下の通りである。

#### 1. 企画セッションの開催趣旨

あらゆる科学において、なんらかの基準を用いていくつかのグループに分ける分類は基本的思考操作である。近年、これらの手法は各分野固有の知識を必要とするより高度な解析へと移行している。そこで、本セッションでは分類に関する新手法について、第一線で活躍している研究者に講演をしていただく。

#### 2. 企画セッションの概要

日時：2012 年 9 月 11 日（火）9:30-11:30

オーガナイザー・座長：栗原考次（岡山大学）

##### (1) 分類手法の新展開

岡太彬訓（多摩大学）

##### (2) 大規模非類似性データに対するシンボリック MDS の適用可能性について

寺田吉壺（大阪大）

宿久 洋（同志社大）

##### (3) 空間データの分類とその応用

石岡文生（岡山大学）

栗原考次（岡山大学）

##### (4) データ分析からの結果はどの程度活用できるのか

今泉 忠（多摩大学）

（岡山大学）

#### ○ 日本分類学会第 31 回大会開催報告

大会実行委員長 酒折 文武

日本分類学会第 31 回大会は、2013 年 3 月 5 日（火）に中央大学後楽園キャンパスにて開催された。9 件の講演が行われ、30 名超の参加者が活発な討論を行った。各セッションの講演は以下の通りである。

#### セッション 1 座長：吉野諒三（統計数理研究所）

・素朴な宗教的感情と信頼感の構造

林 文（東洋英和女学院大）

・社会的距離における測定法の検討

服部浩昌（青山学院大）

・国際比較調査のデータ分析の課題と展望：「価値観と宗教意識」調査を事例として

真鍋一史（青山学院大）

#### セッション 2 座長：林 篤裕（九州大学）

・科研費データベースの分野分類とトピック分類の比較分析

蔵川 圭（国立情報学研究所）

孫 媛（国立情報学研究所）

馬場康維（統計数理研究所）

・ディリクレ過程線形ガウス状態空間モデルにおける変分ベイズ推定とスポーツ選手の成績変化の分類

柳澤圭介（中央大学）

酒折文武（中央大学）

・エシェロン解析を利用した時空間データの分類とその応用

石岡文生（岡山大学）

栗原考次（岡山大学）

#### セッション 3 座長：今泉 忠（多摩大学）

・評価データのクラスタリングに基づくクラスター間類似度とその応用

千葉龍之介（筑波大学）

佐藤美佳（筑波大学）

・3 相 3 元データに対する変量および条件の重みを考慮した階層的クラスタリング法について

谷岡健資（同志社大学）

宿久 洋（同志社大学）

・ブランドスイッチの多層クラスター分析

岡太彬訓（多摩大学）

横山 暁（帝京大学）

（中央大学）

#### ○ IFCS2013

IFCS（国際分類学会連合）理事 水田正弘  
林 篤裕

今年の IFCS2013 (the International Federation of Classification Societies 2013; 国際分類学会連合大会) は、7 月 14 日から 17 日まで、オランダの Tilburg 大学で開催されました。Tilburg 市は、人口 20 万人程度の街で、アムステルダムスキポールが最寄りの空港です。学会発表の申し込み期間の延長などもあり、日本からも多くの発表者がありました。アブストラクト集に掲載されている参加者リストには、日本からの参加者 27 人の名前がありますが、実際はもう少し多かったと思います。このアブストラクト集も含め、学会の情報は、<http://www.tilburguniversity.edu/about-tilburg-university/schools/socialsciences/organization/departments/methodology-statistics/ifcs2013/> から入手できます。

今回の IFCS は、2015 年 7 月 6 日から 8 日で Bologna です。

<http://spitswww.uvt.nl/fsw/mto/IFCS2013/flyerIFCS2015r2.pdf>

日本からの多くの発表・参加が期待されています。

(水田正弘, 北海道大学; 林 篤裕, 九州大学)

○ 2013 年度統計関連学会連合大会 企画セッション「日本分類学会シンポジウム: クラスタリング研究の新展開」

足立浩平

2013 年度統計関連学会連合大会の企画セッションの一つとして、「日本分類学会シンポジウム: クラスタリング研究の新展開」が 9 月 9 日に行われた。このセッションは、オーガナイザーが足立浩平 (大阪大学)、指定討論者が岡太彬訓 (多摩大学) として、以下の 4 つの講演がなされました。

1. 分類構造に基づく相関分析

佐藤 美佳 (筑波大学)

2. 混合比率分析: 行列分解によるファジィクラスタリング

西田 豊 (大阪大学)

足立 浩平 (大阪大学)

3. 3 元データ分析のための additive tree 推定と視覚化について

谷岡 健資 (同志社大学)

宿久 洋 (同志社大学)

4. ファジィグラフに基づくクラスタリング: 基本的性質と新たな展開

宮本 定明 (筑波大学)

なお、指定討論者が所用で出席できなくなり、オーガナイザーが指定討論者作成のスライドを用いて、指定討論がなされた。以上のセッションの趣旨は、次の「」内に記すとおりであった。「いかなる学問も対象の分類から始まる点で、いわゆる教師なし分類を統計的に行うクラスタリングのニーズは絶えることはない。従って、多変量データ解析の諸分野の中でも、クラスタリングの研究は、はやり廃れなく常に活発に進行してきた。さらに、クラスタリングの研究は、統計学のソサイエティ内に限定されず、パターン認識や機械学習など工学の世界でも展開され、K 平均法・ファジィクラスタリングなどの非階層的方法や、階層的クラスター分析、そして、混合分布モデルによる分析など多岐に渡る方法が開発されている。こうしたクラスタリング研究の新たな展開につ

いて、日本を代表する研究者による講演と指定討論に、若手研究者の講演を交えたセッションを開催する」。

(大阪大学)

## 大会参加報告

○ JCS-CLADAG2012 に参加して

富田 誠

実は日本分類学会はおろか、いわゆる分類系の国際会議に出席したのも、この日伊分類会議

JCS-CLADAG2012 が初めてのことでした。それは、いつも大変お世話になっております岡山大学の栗原考次先生より、この国際会議で栗原先生がオーガナイズされている招待セッション Spatial Clustering and its Applications にて研究発表してもらいたいと要請を受け、恐縮ながらお引き受けしたためでした。

JCS-CLADAG2012 はイタリアでも景勝地として世界的にも名高いカプリ島の街 Anacapri にて 2012 年 9 月 3-4 日に開催されました。会議自体はその Anacapri にある Villa Orlandi という場所で行われ、大きな会場ではないもののイタリアのリゾート地という表現がぴったりの解放さがありました。基本的には 3 パラレルのセッションで開催され、Keynote や特別セッションの場合だけシングルセッションで進行される形で、前者が 18 セッション、後者が 6 セッションございました。招待を受けたセッションはシングルセッションの形で進行されるものでしたので、大変恐縮で緊張の発表となったことを覚えております。当日、このセッションは街中にある Auditorium Edwin Cerio という劇場で開催され、Association Study and Comprehended Hierarchical Structures on DNA markers のタイトルで、ゲノムデータを解析する上での解析領域の絞り込み判別問題などを講演させていただきました。

同島では特に「青の洞窟」が有名であることは、紹介の必要はないかと存じます。この国際会議の直前に開催されていた別の会議から移動し、9 月 1 日には現地におり、初日からほぼ毎日通いつめていました。洞窟内に入る小型のボートは波が高いと営業をやめてマリーナグランデの方へ引き返してしまいます。最終日も発表を終え、青の洞窟へ向かいましたが、正にボートが引き上げていくのが見えました。非常に残念な気持ちでしたが、自己責任の下、意を決してほとんど装備も無いスポーツウェアの短パンで突入し、険しい波の中、なんとか洞窟内部より青色であることだけ確認致しました！足の裏を岸壁で怪我してしまいましたが、今後の人生で忘れること

のできない体験ができたな、と思い返します。

末筆ではございますが、今回、広報の幹事先生より私にこのような執筆の機会をいただけ、お礼申し上げます。



会場 Villa Orlandi での Opening の様子



Monte Solaro の頂上にて  
(雨上がりの虹。アマルフィが遠くに見えます)

(東京医科歯科大学)

#### ○ IFCS2013 に参加して (その 1)

山本倫生

国際分類学会連合 (International Federation of Classification Societies: IFCS) の国際会議が 2013 年 7 月 14 日～17 日の 4 日間にわたってオランダの Tilburg 大学において開催されました。私は分類関連の会議に参加するのは今回の IFCS が初めてでしたので、大きな期待を持って参加させていただきました。

14 日は全日 workshop が開催され、一方的に講師が話す形式ではなく参加者とのディスカッションにより進められたセッションもあり、非常に有益な workshop だったようです。都合により残念ながら

私は参加できませんでしたが、Mixture models で有名な G. McLachlan 氏をはじめとした著名な講師陣による workshop は魅力的でした。

メインの会議は 15 日から開催され、大ホールで行われる招待講演と 6 つの並行セッションから構成されており、1 つのセッションに常時 3,40 人が参加していたようです。フロアからの質問やコメントも多く、非常に活気のあるセッションが多い印象を受けました。実際に、私は Reduced rank clustering というタイトルのセッションで発表を行ったのですが、持ち時間いっぱいまでフロアからの質問やコメントが尽きず、私の技量の未熟さから対応に苦慮したことが思い出されます。さらに、セッション終了後に Henk A.L. Kiers 氏や Michel van de Velden 氏からコメントをいただくなどして、世界的に著名な研究者と議論を行う機会を持てたことは大変有意義でした。Social Event や Conference Dinner でも、気軽に著名な研究者と意見交換ができる雰囲気でしたので、私のような駆け出しの研究者で大会初参加者に対しても、居心地の良い場となりました。

今回、IFCS2013 に参加させていただき、著名な先生方の発表が聞けたというだけではなく、私の研究やその他さまざまな事柄に対する先生方のご意見やお話を拝聴することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。このように、著名な先生方との距離感が近いことは、国際分類学会連合の非常に素晴らしい特徴であり、私のような若手研究者や学生にとって非常に大きなメリットであると改めて感じました。是非、次回 2015 年にイタリアのボローニャ (Bologna) で開催予定の IFCS2015 にも参加し、有意義な時間を過ごせるよう、日々の研究活動に一生懸命に取り組みたいと思います。

(京都大学)

#### ○ IFCS2013 参加報告 (その 2)

松井佑介

今回初めて IFCS に参加いたしました。会場はオランダ・ティルブルフ大学というところで、大学構内は自然豊かで美しく、最寄りの駅から会場までゆったりと歩いて行くことができました。講演に関しては、全体で Invited Plenary が 5 件と一般講演等が 209 件ありました。

私は自分の研究に関連するシンボリックデータ解析 (SDA) の講演を中心に回りました。国内で聞く機会は少ないのですが、欧州は SDA の本場ということもあり、多くの講演を聞くことができました。また私自身の発表後、この分野で著名な M. P. Brito

先生から大変貴重なコメントいただけて勉強になりました。

全体の講演を通して印象的だったことは、分類手法の応用範囲の広さでした。私のような若手には視野を広げるという意味でとても貴重な機会です。世界中から分類手法に関わる研究者が集まる IFCS だからこそ、このような経験ができるのだと思います。

空き時間には、会場から少し離れたブレダという小さな街を観光しました。街の中心には象徴的な古い教会がそびえ立ち、それに見守られるように風情ある家屋や商店が石畳の上に軒を連ねていました。平日の昼から、老若男女がオープンテラスでジョッキやカップを片手に会話を楽しむ風景は、欧州の愛すべき文化の一面を感じさせてくれました。次回は 2015 年にイタリアのボローニヤですが、機会があれば是非参加したいと思います。



大会会場



学会風景



IFCS2015 の予告の様子  
(北海道大学大学院)

## 大会・シンポジウム開催案内

○日本分類学会第 32 回大会開催について

実行委員長 中山厚穂

日本分類学会第 32 回大会を、2014 年 3 月 1 日（土）～2 日（日）に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて開催させていただくことになりました。東京にお住まいの方には、首都大学東京と言えば、八王子にある南大沢キャンパスをご存知の方が多いと思いますが、大会は産学公連携活動の拠点として活用されている秋葉原のサテライトキャンパスで開催されます。サテライトキャンパスは JR 秋葉原駅前に設けられた「秋葉原クロスフィールド」にある秋葉原ダイビル 12 階にありアクセスの良い立地となっています。多くの会員の皆様のご参加並びにご講演をお待ちしております。大会初日の 3 月 1 日はデータ分析セミナー「ビジネスのためのデータマッピング」を開催予定です。また、データ分析セミナー終了後、懇親会（有料）を予定しております。

講演申込、予稿集原稿提出締切は以下のような日程となっております。

講演申込締切：2014 年 1 月 31 日（金）

予稿集原稿提出締切：2014 年 2 月 7 日（金）

詳細が確定し次第、日本分類学会のウェブサイト <http://bunrui.jp> にてお知らせいたします。本大会が有意義な会となるよう実行委員一同最善を尽くし、皆様をお待ちしております。大会についてのお問い合わせは、大会事務局（中山厚穂）までお願い致します。

日本分類学会第 32 回大会事務局

首都大学東京大学院社会科学部研究科経営学専攻

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京都市教養学部経営学系 気付

E-mail: [jcs32ndmeeting@gmail.com](mailto:jcs32ndmeeting@gmail.com)

### <大会開催要項>

会期：2014 年 3 月 1 日（土）～2 日（日）

（3 月 1 日（土）は 12:30 から受付開始、13:00 よりデータ分析セミナー）

会場：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス

（〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 12 階）

[http://www.tmu.ac.jp/university/campus\\_guide/access.html](http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html)

JR 線・京浜東北線「秋葉原駅」徒歩 1 分、日比谷線「秋葉原駅」徒歩 4 分、銀座線「末広町駅」徒歩 5 分、つくばエクスプレス「秋葉原駅」徒歩 3 分。

参加費：会員・シニア会員：3,000 円

学生会員：1,000 円

非会員：5,000 円

非会員学生：3,000 円

※賛助会員の組織からの参加については5名まで会員扱いにいたします。

※参加費は当日、会場でお支払いください。

※当日、日本分類学会会員申し込みされた方は学会正会員として扱わせて頂きます。

(首都大学東京)

## ○日本分類学会・データ分析セミナー2013

ビジネスのためのデータマッピング 開催のご案内

企画担当幹事 豊田裕貴

### セミナー概要

ビッグデータ化やデータサイエンティストという言葉が着目され、ますますビジネスの現場でもデータ分析への期待と需要が高まっています。

日本分類学会では、実社会に役立つ統計学やデータ分析を普及すべく、データ分析セミナーを開催します。

2013年度のテーマは、ビジネスデータの視覚化、とくにマッピングによるデータの視覚化。どのようなマッピングがあるのか、それをビジネスでいかに活用するのかをご紹介します。

なお、セミナーでは、受講された方が後ほど自分で試してみられるようにとの思いからRというフリーのソフトウェアを用いた方法を解説します。

日時・場所：2014年3月1日(土)：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス

参加費(テキスト付き)：正会員 4,000 円

非会員 5,000 円

内容(予定)

13:00~17:00

(1) ポジショニング把握のためのデータマッピング～散布図を活用してビジネスデータを分析する～

(2) ビジネスデータマッピングにMDSを活用する  
1～MDS入門：基本的な仕組みと使い方を理解する～

(3) ビジネスデータマッピングにMDSを活用する  
2～MDS活用：ビジネスへの応用可能性を考える～  
(多摩大学)

## 「データ分析の理論と応用」の特集について

編集委員長 岡太彬訓

編集委員会では、「データ分析の理論と応用」において、以下の要領で特集を組んでいます。

特集名：クラスター分析の新展開

投稿期限：2014年2月末日

査読済最終原稿の期限：2014年7月末日(予定)

発行：2014年9月(予定)

投稿宛先：bda-clustersubmit@bunrui.jp

特集「クラスター分析の新展開」の担当編集委員：

宮本定明(筑波大学システム情報系リスク工学専攻)

問い合わせ先：bda-clustersubmit@bunrui.jp

Call for papers は以下の URL にあります。

<http://www.bunrui.jp/journal.html#special>

皆様のご投稿をお待ちしております。

(多摩大学)

## 総会記録

日本分類学会平成24年度総会議事録

日時：平成25年3月5日(火) 16:35~17:30

場所：中央大学後楽園キャンパス 6号館 11階 61130号室

出席者：22名

### ■ 開会の挨拶

林幹事長の挨拶により総会が開会された

### ■ 議長の選出

議長として岡山大学の石岡文生氏が推薦され、承認された。

### ■ 議題

#### 1. 会員種別の新設について

今泉幹事からフェロー授与制度の設置について経緯と主旨の説明があり、早期設置に向けて運営委員会に諮る予定である旨の説明があった。また、今泉幹事から名誉会員の設立について提案があり、その設立の主旨や経緯などについての説明があった。審議の結果、2つの提案は承認された。

#### 2. 日本分類学会学会賞について

今泉幹事から学会賞についての紹介があり、運営委員会で審議し、来年度の総会で表彰できるように

準備を進めている旨の報告があった。

### 3. 平成 24 年度事業報告ならびに決算報告について

竹内幹事より、平成 24 年度事業報告ならびに決算報告についての説明があった。決算額については会期末になっていないため、想定される支出を予想金額で計上しており、最終決算では一部で変更が考えられるが、最終確定したものについては会報などで報告する旨の説明があった。審議の結果、承認された。

### 4. 平成 25 年度事業計画ならびに予算計画について

竹内幹事より、平成 25 年度事業計画ならびに予算計画についての説明があり、審議の結果、承認された。

### 5. その他

#### 5.1 和文誌編集委員会委員について

岡太編集委員会委員長より、編集委員として、林文氏、大津起夫氏を追加することが編集委員会で承認された旨の報告があった。

#### 5.2 関連する学会の動向について

##### ○統計関連学会

馬場会長より、統計関連学会連合大会のプログラム委員会において本学会推薦の岡山大学の栗原考次氏がプログラム委員長に任命されたため、大阪大学の足立浩平氏を追加委員として推薦したこと、また同運営委員会において本学会推薦の筑波大学の佐藤美佳氏が委員長に任命されたため、追加委員として統計数理研究所の久保田貴文氏を推薦した旨の報告があった。

また、馬場会長より、平成 25 年 9 月の統計関連

学会連合大会での分類学会の企画シンポジウムを大阪大学の足立浩平氏に依頼したことが報告された。

##### ○IFCS2013

馬場会長より、IFCS2013 において日本分類学会企画セッションのオーガナイザーを岡山大学の栗原考次氏に依頼した旨の紹介があった。あわせて、今泉幹事から次回の IFCS のアブストラクト提出が延期された旨の報告があり、積極的な参加が呼びかけられた。

#### 5.3 会員名簿の管理について

統計教育大学間連携ネットワークが実施した「大学における統計教育実態調査」に対して、会員情報を提供したことについて会員より質問があった。分類学会は統計教育大学間連携ネットワークに協力するという協定書を結んでおり、幹事会としては公的な情報とも取れる『大学に所属する会員の、その所属と所属住所のみ』の提供であれば、会員に対して不利益にはならないであろうと判断して情報の提供を行った。しかし、プライバシーポリシーを拡大解釈していた可能性もあることから、今後はプライバシーポリシーにより一層注意しながら個人情報を取り扱うこととした。

#### 5.4 次回大会について

次回大会(第 32 回大会)は平成 26 年 3 月に首都大学東京で開催することとし、大会委員長の中山厚穂氏から開催に向けての挨拶があった。

##### ■ 閉会の挨拶

最後に、馬場会長から会期の最後としての総括を踏まえ、閉会の挨拶が行われ、閉会となった。

## 日本分類学会 平成 24 年度事業報告

平成 25 年 3 月 5 日

### 1. 第31回大会, 2012年シンポジウムの開催

第31回大会を平成25年3月5日(火)に中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区)で開催した(発表件数 9 件). 2012年シンポジウムを平成24年9月11日(火)(統計関連連合大会会期中)に北海道大学で栗原考次氏を中心に開催した.

### 2. 第31回通常総会の開催

第31回通常総会を第31回大会開催中の平成25年3月5日(火)に中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区)にて開催した.

### 3. 運営委員会, 幹事会の開催

- (1) 運営委員会は第1回を平成25年3月5日(火)に中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区)で, 開催した. 主に, 会則変更, 会種別の新設, 退会審議, その他検討の必要な課題, などを検討した.
- (2) 第8回~第13回ネット幹事会を, それぞれ電子メールにて実施した. 主に, 入会審議, その他検討の必要な課題, などを検討した.

### 4. 会報, ウェブサーバおよびメールニュースによる学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報(No.31を平成24年6月発行)およびウェブページにて発信した. 加えて, メールニュース(仮称)による適宜会員への情報提供を行うことを踏まえ, 申請されているメールアドレスの検証をおこなった.

### 5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行, ADAC(欧文ジャーナル)の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第2巻第1号の発行を行った. またADACへの発行協力および投稿支援を行った.

### 6. シンポジウム, 講演会の開催

- (1) Joint meeting of Japanese and Italian Classification Societiesの開催  
シンポジウム(平成24年9月3日~4日, Capri Island, Italy)を開催した.
- (2) 多摩大学・日本分類学会共催講演会の開催  
Professor Innar Liiv (Tallinn University of Technology) を招き, 平成 24 年11 月19 日(月)  
15:30-17:00 で多摩大学品川キャンパスにて開催した.

### 7. 次期役員選挙の実施

次期(平成25-26年度)役員を選ぶ選挙を平成 24 年度 2-3 月に行っている.

### 8. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合理事会への協力, 理事会への参加, プログラム委員会, 運営委員会への参加, 2012年度統計関連学会連合大会の共催を行った.
- (2) 国際分類学会(IFCS)への協力, 分担金の負担を行うために, 預金積み立てを行った.
- (3) IFCS傘下学会への協力を行った.
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った.

### 9. 学術会議への登録検討

本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて, 必要な書類等を確認し, 申請準備を行った.

### 10. 学会資料の電子化および保管

本学会の雑誌を JST が公開しているデータベースへの登録を行った. また本学会の資料を J-Stage 等の団体での電子媒体での公開を踏まえ調整を行うこと, 電子化に伴い, 紙媒体の資料の整理を行い, しかるべき場所での保管ことについては継続審議とした.

平成 24 年度決算  
平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位: 円

| 科 目              | 予算額       | 決算        | 増 減       | 備 考                                       |
|------------------|-----------|-----------|-----------|-------------------------------------------|
| <b>I. 収入の部</b>   |           |           |           |                                           |
| 1 入会金収入          | 10,000    | 12,000    | 2,000     | 2,000 円×6 人                               |
| 2 会費収入           | 476,000   | 715,000   | 239,000   | 納入率 64%                                   |
| 正 会 員            | 425,000   | 456,000   | 31,000    | 5,000 円×91 人, 前受金での不足分 1,000 円 (納入率: 64%) |
| シニア 会 員          | 15,000    | 0         | △ 15,000  | 平成 25 年度より実施のため, 本年度は該当者なし                |
| 学 生 会 員          | 6,000     | 6,000     | 0         | 2,000 円×3 人 (納入率: 80%)                    |
| 賛 助 会 員          | 30,000    | 30,000    | 0         | 30,000 円×1 口 (納入率: 50%)                   |
| 前年度以前分           | 0         | 106,000   | 106,000   |                                           |
| 前受金              | 0         | 117,000   | 117,000   | 2013 年度前受金 (5,000 円×23 人, 2,000 円×1 人)    |
| 3 論文誌関係収入        | 80,000    | 130,000   | 50,000    |                                           |
| 論文集売上            | 0         | 0         | 0         | バックナンバー販売など                               |
| 予稿集売上            | 0         | 0         | 0         | バックナンバー販売など                               |
| 広告収入             | 80,000    | 130,000   | 50,000    | 論文誌 Vol. 2 の広告収入                          |
| 別刷代金             | 0         | 0         | 0         |                                           |
| 4 雑収入            | 0         | 144,303   | 144,303   |                                           |
| 大会・シンポジウム参加費     | 0         | 0         | 0         | 独立採算                                      |
| セミナー参加費          | 0         | 0         | 0         |                                           |
| 寄付・広告等           | 0         | 0         | 0         |                                           |
| 利子収入             | 0         | 48        | 48        |                                           |
| その他              | 0         | 144,255   | 144,255   | No2 の雑誌編集費 (TeX 化), 第 31 回大会補助費一部返還       |
| 5 繰入金収入          | 60,000    | 60,000    | 0         |                                           |
| 積立より繰入           | 60,000    | 60,000    | 0         | 選挙経費積立より繰入                                |
| A 当期収入合計         | 626,000   | 1,061,303 | 435,303   |                                           |
| B 前期繰越収支差額       | 1,116,342 | 1,116,342 | 0         |                                           |
| C 収 入 合 計 (A+B)  | 1,742,342 | 2,177,645 | 435,303   |                                           |
| <b>II. 支出の部</b>  |           |           |           |                                           |
| 1 論文誌発行業務費       | 300,000   | 643,584   | △ 343,584 |                                           |
| 和文誌 (Vol.2)      | 300,000   | 538,164   | △ 238,164 | 送料を含む                                     |
| その他              | 0         | 105,420   | △ 105,420 | No2 の雑誌編集費 (TeX 化)                        |
| 2 事業費            | 230,000   | 66,330    | 163,670   |                                           |
| 大会・シンポジウム運営補助費   | 50,000    | 50,000    | 0         | シンポジウムは連合大会のときに実施                         |
| セミナー運営補助費        | 0         | 0         | 0         |                                           |
| 広報費              | 100,000   | 0         | 100,000   | 学会パンフレット作成費                               |
| 学会賞経費            | 10,000    | 0         | 10,000    |                                           |
| 名簿作成             | 0         | 0         | 0         |                                           |
| 選挙経費             | 60,000    | 14,330    | 45,670    |                                           |
| その他              | 10,000    | 2,000     | 8,000     | 入会キャンペーン負担金                               |
| 3 学会運営会合費        | 40,000    | 18,900    | 21,100    |                                           |
| 幹事会・運営委員会・総会等運営費 | 40,000    | 18,900    | 21,100    | 会議弁当代                                     |
| その他              | 0         | 0         | 0         |                                           |
| 4 事務費            | 135,000   | 124,565   | 10,435    |                                           |
| 業務委託費            | 50,000    | 50,420    | △ 420     | 統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費                    |
| 人件費 (交通費含む)      | 0         | 0         | 0         |                                           |
| 事務用品・消耗品費        | 25,000    | 20,638    | 4,362     | 学会角印, 封筒購入                                |
| ADAC 事務連絡費       | 5,000     | 0         | 5,000     | 該当者のみ発送, 購読費は会費に上乗せ                       |
| ウェブ運営管理費         | 5,000     | 3,130     | 1,870     |                                           |
| 会報印刷費            | 45,000    | 47,670    | △ 2,670   | 会報 No.31                                  |
| 印刷費              | 5,000     | 0         | 5,000     | 開催案内, プログラムなど連絡用印刷費                       |
| その他              | 0         | 2,707     | △ 2,707   | 雑誌配布に対する手土産                               |
| 5 通信・郵送費         | 76,000    | 58,860    | 17,140    |                                           |
| 会報等送料            | 56,000    | 22,080    | 33,920    | 会報 No.31, 学会からのお知らせ                       |
| 会費請求等連絡通信費       | 10,000    | 720       | 9,280     | 会費請求に関する資料等の送付                            |
| その他              | 10,000    | 36,060    | △ 26,060  | 他学会へのメール便, 学会での送付物, 振替用紙印刷費, 再送, 他        |
| 6 負担金            | 45,000    | 40,960    | 4,040     |                                           |
| IFCS             | 25,000    | 20,750    | 4,250     | 200 ドル×1 年分 (2012 年度分) および海外送金等経費         |
| 統計関連学会連合         | 20,000    | 20,210    | △ 210     | 2012 年分, 振込手数料を含む                         |
| 7 積立             | 60,000    | 60,000    | 0         |                                           |
| 特別事業のための積立       | 20,000    | 20,000    | 0         |                                           |
| 名簿作成のための積立       | 10,000    | 10,000    | 0         |                                           |
| 選挙経費のための積立       | 30,000    | 30,000    | 0         |                                           |
| 8 予備費            | 1,000     | 0         | 1,000     |                                           |
| D 当期支出合計         | 887,000   | 1,013,199 | △ 126,199 |                                           |
| E 当期収支差額 (A-D)   | △ 261,000 | 48,104    | △ 309,104 |                                           |
| F 次期繰越収支差額 (C-D) | 855,342   | 1,164,446 | △ 309,104 |                                           |
| G 支 出 合 計 (D+F)  | 1,742,342 | 2,177,645 | △ 435,303 |                                           |

日本分類学会会則第 10 条に基づき, 平成 24 年 4 月 1 日より平成 25 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果, 決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成 25 年 10 月 3 日  
会計監事

繁 樹 算 男

印

会計監事

林 文

印

(実際の決算書には両監事の直筆の署名と捺印あり)

## 日本分類学会 平成 25 年度事業計画

平成 25 年 3 月 5 日

### 1. 第32回大会, 2013年シンポジウムの開催

第32回大会を平成26年3月に首都大学東京(東京, 大会委員長:中山厚穂氏)で開催する. 2013年シンポジウムを平成25年9月(統計関連連合大会会期中, オーガナイザ:足立浩平氏)に開催する.

### 2. 第32回通常総会の開催

第32回通常総会を第32回大会開催中の平成25年3月に首都大学東京(東京)にて開催する.

### 3. 運営委員会, 幹事会の開催

- (1) 運営委員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する  
下記事項を検討課題とする.
  - ・他学会大会・シンポジウムへの協賛, 統計関連学会連合への対応
  - ・総会の議題
  - ・その他検討の必要な課題
- (2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する.

### 4. 会報, ウェブサーバおよびメールニュースによる学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報(No.32を平成25年6月発行)およびウェブページにて発信する. 加えて, 速報性のある情報についてはメールニュース(仮称)による適宜会員への情報提供を行うことを踏まえ, その環境整備を行う.

### 5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行, ADAC(欧文ジャーナル)の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第3巻第1号の発行を行う. またADACへの発行協力および投稿支援を行う.

### 6. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合理事会への協力, 理事会への参加, プログラム委員会, 運営委員会への参加, 2013年度統計関連学会連合大会の共催
- (2) 国際分類学会(IFCS)への協力, 分担金の負担
- (3) IFCS傘下学会への協力
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

### 7. 学術会議への登録検討

本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて検討を行う.

### 8. 学会資料の電子化および保管

本学会の資料を J-Stage 等の団体での電子媒体での公開を踏まえ調整を行う. また電子化に伴い, 紙媒体の資料の整理を行い, しかるべき場所での保管を検討する.

平成 25 年度予算  
平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位: 円

| 科 目              | 予算額       | 前年度予算     | 増 減       | 備 考                             |
|------------------|-----------|-----------|-----------|---------------------------------|
| <b>I. 収入の部</b>   |           |           |           |                                 |
| 1 入会金収入          | 10,000    | 10,000    | 0         | 2,000 円×5 人として算出                |
| 2 会費収入           | 476,000   | 476,000   | 0         |                                 |
| 正 会 員            | 430,000   | 425,000   | 5,000     | 5,000 円×(142 人×0.60≒86 人)として算出  |
| シニア 会 員          | 6,000     | 15,000    | 6,000     | 3,000 円×2 人として算出                |
| 学 生 会 員          | 10,000    | 6,000     | 4,000     | 2,000 円×(6 人×0.80≒5 人)として算出     |
| 賛 助 会 員          | 30,000    | 30,000    | 0         | 30,000 円×1 口として算出               |
| 前年度以前分           | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 前受金              | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 3 論文誌関係収入        | 100,000   | 80,000    | 20,000    |                                 |
| 論文集売上            | 0         | 0         | 0         | バックナンバー販売など                     |
| 予稿集売上            | 0         | 0         | 0         | バックナンバー販売など                     |
| 広告収入             | 100,000   | 80,000    | 20,000    | 論文誌 Vol. 3 の広告収入、昨年度実績より算出      |
| 別刷代金             | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 4 雑収入            | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 大会・シンポジウム参加費     | 0         | 0         | 0         | 独立採算                            |
| セミナー参加費          | 0         | 0         | 0         | 今年度実施計画なし                       |
| 寄付・広告等           | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 利子収入             | 0         | 0         | 0         |                                 |
| その他              | 0         | 0         | 0         | No3 の雑誌編集費(TeX 化)               |
| 5 繰入金収入          | 0         | 60,000    | △ 60,000  |                                 |
| 積立より繰入           | 0         | 60,000    | △ 60,000  |                                 |
| A 当期収入合計         | 586,000   | 626,000   | △ 40,000  |                                 |
| B 前期繰越収支差額       | 1,164,446 | 1,116,342 | 48,104    |                                 |
| C 収入合計(A+B)      | 1,750,446 | 1,742,342 | 8,104     |                                 |
| <b>II. 支出の部</b>  |           |           |           |                                 |
| 1 論文誌発行業務費       | 350,000   | 300,000   | 50,000    |                                 |
| 和文誌(Vol.3)       | 350,000   | 300,000   | 50,000    | 送料を含む                           |
| その他              | 0         | 0         | 0         | No3 の雑誌編集費(TeX 化)               |
| 2 事業費            | 110,000   | 230,000   | △ 120,000 |                                 |
| 大会・シンポジウム運営補助費   | 50,000    | 50,000    | 0         | シンポジウムは連合大会のときに実施               |
| セミナー運営補助費        | 0         | 0         | 0         | 今年度実施計画なし                       |
| 広報費              | 50,000    | 100,000   | △ 50,000  | 学会パンフレット作成費                     |
| 学会賞経費            | 10,000    | 10,000    | 0         |                                 |
| 名簿作成             | 0         | 0         | 0         | 今年度実施計画なし                       |
| 選挙経費             | 0         | 60,000    | △ 60,000  | 今年度実施計画なし                       |
| その他              | 0         | 10,000    | △ 10,000  |                                 |
| 3 学会運営会合費        | 40,000    | 40,000    | 0         |                                 |
| 幹事会・運営委員会・総会等運営費 | 40,000    | 40,000    | 0         | 昨年度実績より算出                       |
| その他              | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 4 事務費            | 127,500   | 135,000   | △ 7,500   |                                 |
| 業務委託費            | 50,000    | 50,000    | 0         | 統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費          |
| 人件費(交通費含む)       | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 事務用品・消耗品費        | 22,000    | 25,000    | △ 3,000   | 学会角印、封筒購入、昨年度実績より算出             |
| ADAC 事務連絡費       | 2,000     | 5,000     | △ 3,000   | 該当者のみ発送、購読費は会費に上乗せ、昨年度実績より算出    |
| ウェブ運営管理費         | 3,500     | 5,000     | △ 1,500   | 昨年度実績より算出                       |
| 会報印刷費            | 45,000    | 45,000    | 0         | 会報 No.32、昨年度実績より算出              |
| 印刷費              | 5,000     | 5,000     | 0         | 開催案内、プログラムなど連絡用印刷費              |
| その他              | 0         | 0         | 0         |                                 |
| 5 通信・郵送費         | 50,000    | 76,000    | △ 26,000  |                                 |
| 会報等送料            | 40,000    | 56,000    | △ 16,000  | 会報 No.32、学会からのお知らせ、昨年度実績より算出    |
| 会費請求等連絡通信費       | 5,000     | 10,000    | △ 5,000   | 会費請求に関する資料等の送付、昨年度実績より算出        |
| その他              | 5,000     | 10,000    | △ 5,000   | 他学会へのメール便、学会での送付物               |
| 6 負担金            | 44,210    | 45,000    | △ 790     |                                 |
| IFCS             | 24,000    | 25,000    | △ 1,000   | 200 ドル×1 年分(2013 年度分)および海外送金等経費 |
| 統計関連学会連合         | 20,210    | 20,000    | 210       | 2013 年分、振込手数料を含む                |
| 7 積立             | 25,000    | 60,000    | △ 35,000  |                                 |
| 特別事業のための積立       | 10,000    | 20,000    | △ 10,000  | 原則、独立採算として実施しているため              |
| 名簿作成のための積立       | 0         | 10,000    | △ 10,000  | 名簿作成を保留するため                     |
| 選挙経費のための積立       | 15,000    | 30,000    | △ 15,000  | 選挙にかかる実費から算出                    |
| 8 予備費            | 1,000     | 1,000     | 0         |                                 |
| D 当期支出合計         | 747,710   | 887,000   | △ 139,290 |                                 |
| E 当期収支差額(A-D)    | △ 161,710 | △ 261,000 | 99,290    |                                 |
| F 次期繰越収支差額(C-D)  | 1,002,736 | 855,342   | 147,394   |                                 |
| G 支出合計(D+F)      | 1,750,446 | 1,742,342 | 8,104     |                                 |

## 運営委員会記録

### ● 日本分類学会平成 24 年度第 1 回運営委員会

日時：平成 25 年 3 月 5 日（火）11:30～13:00

場所：中央大学後楽園キャンパス 6 号館 11 階 61130 号室

出席者：馬場康維(会長，統計数理研究所)，林篤裕(幹事長，九州大学)，今泉忠(多摩大学)，岡太彬訓(多摩大学)，栗原考次(岡山大学)，酒折文武(中央大学)，佐藤美佳(筑波大学)，清水信夫(統計数理研究所)，竹内光悦(実践女子大学)，豊田裕貴(多摩大学)，中山厚穂(首都大学東京)，真鍋一史(青山学院大学)，矢島敬二，吉野諒三(統計数理研究所)(会長，幹事長以外五十音順，敬称略)

### ■ 開会の挨拶

馬場会長の挨拶により運営委員会が開会された。

### ■ 議題

#### 1. 名誉会員の設立について

今泉幹事から名誉会員の設立について提案があり，その設立の主旨や経緯などについての説明があった。審議の結果，承認され，総会に上程することになった。

#### 2. フェロー授与制度の設置について

今泉幹事からフェロー授与制度の設置についての提案があり，その主旨や経緯などについての説明があった。審議の結果，運営委員会で継続審議し，次年度の新体制が発足したい早急に審議を再開することとなった。ただし，フェロー授与制度の設置について検討していることを総会で報告することとした。

#### 3. 日本分類学会学会賞について

今泉幹事から学会賞の設立の方針についての提案と報告があり，引き続き，運営委員会で継続審議することとなった。なお，来年度には選考委員会を組織し，来年度の総会で受賞者を決定することが確認された。

#### 4. 総会議題の確認

##### (1) 平成 24 年度事業報告・決算について

竹内幹事から平成 24 年度事業報告ならびに決算報告についての説明があった。決算額については会期末になっていないため，想定される支出を予想金額で計上しており，最終決算では一部で変更があることの追加説明があった。審議の結果，承認された。

##### (2) 平成 25 年度事業計画・予算案について

竹内幹事から平成 25 年度事業計画ならびに予算案について説明があった。馬場会長から事業計画として，IFCS で JCS のセッションを栗原委員が企画している旨の補足があった。審議の結果，承認された。

#### 5. 退会と会員種別変更の審議と入会者の報告

竹内幹事から，退会申込についての審議依頼があり，申請通り退会を認めることとなった。また合わせて前回の運営委員会以降の会員種別変更と入会者についても報告があった。

#### 6. 大会の次回開催場所について

竹内幹事から次回大会(第 32 回大会)の開催について平成 26 年 3 月に首都大学東京にて中山厚穂氏(首都大学東京)を中心に検討していることの説明があり，承認された。

#### 7. 役員選挙について

運営委員会から次期会長候補として今泉忠氏を候補者として総会に推薦することが承認された。竹内幹事から，会計監事については，会員から繁樹算男氏と吉野諒三氏と他 2 名の推薦があったことが報告された。審議の結果，繁樹算男氏と吉野諒三氏を運営委員会から会計監事として総会に推薦することとなった。また，運営委員については，会員からの推薦があったものから，3 期連続して委員を務めているものは次期では委員となれないことから，該当者を除き候補者とする事とした。

#### 8. その他

竹内幹事より，日本統計協会から連合 6 学会の会員に対して機関誌「統計」の学会員優待希望購入制度を導入することのお知らせがあった旨の報告があった。審議の結果，総会や会報などでの告知を行うこととなった。

岡太編集委員長より，編集委員会委員に林文氏，大津起夫氏を追加することとした旨の報告があった。

退会の審議の方法の変更について今後，検討することとなった。

### ■ 開会の挨拶

最後に，馬場会長から会期の最後としての総括を踏まえ，閉会の挨拶が行われ，閉会となった。

● 平成 23-24 年度第 3 回ネット運営委員会

日時：平成 25 年 3 月 31 日～4 月 11 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 退会承認について

● 平成 25-26 年度第 1 回ネット運営委員会

日時：平成 25 年 7 月 11 日～7 月 30 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 幹事会メンバーの承認について

### 幹事会記録

● 平成 23-24 年度第 12 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 10 月 10 日～10 月 11 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

● 平成 23-24 年度第 13 回ネット幹事会

日時：平成 24 年 11 月 2 日～12 月 3 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

● 平成 23-24 年度第 14 回ネット幹事会

日時：平成 25 年 5 月 4 日～5 月 12 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

● 平成 25-26 年度第 1 回ネット幹事会

日時：平成 25 年 9 月 3 日～9 月 8 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

### 事務局から

● 学会誌への論文投稿について

学会研究報告会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。特に本会報でご案内したように特集が企画されています。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

2011 年 9 月に第 1 号を、2012 年 9 月に第 2 号、2013 年 9 月に第 3 号を発刊いたしました。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit(at) bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact(at) bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society)およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group)と共同で、2007 年より Springer 社から刊行しております(年間 3 冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>)のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■ 編集後記

今号に寄稿いただいた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。また、発行が遅れましたことをお

詫び申し上げます。今後、会報のみならずさまざまな形で情報発信をしていくことを計画しております。また、ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

編集担当：横山 暁（帝京大学）

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

（公財）統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: [office@bunrui.jp](mailto:office@bunrui.jp)（事務局）

URL: <http://www.bunrui.jp/>